

## 審議結果

審議会等名称：神奈川県総合計画審議会第102回計画推進評価部会

開催日時：令和6年10月9日（水）15:30～17:00

開催場所：神奈川県庁西庁舎6階 災害対策本部室

※Web会議サービスによるオンライン会議を併用して実施

出席者：◎小野島真、河野英子、山田貴子、国崎信江、伊達仁人、中西正彦、原嶋洋平、堀越由紀子、矢島洋子、山岸絵美理、羅順英、金川剛文、中田直樹  
〔計13名〕

（◎部会長）

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 山田

電話番号045-210-3061（直通） ファックス番号045-210-8819

---

### 審議経過（議事録）

#### 議題 「新かながわブランドデザイン実施計画」の進行管理について

##### 《資料1、2、3について事務局から説明》

- **小野島部会長**：資料1、2、3と3つの資料について説明をいただきました。資料2が進行管理のあり方です。資料3が評価の成果物として具体的に作っていくものになります。これに関して、前回の部会でのご意見と反映状況について、ご説明いただいたという流れになっています。これらを踏まえ、皆様からご意見をいただきたいと思えます。審議の進行に当たっては、できるだけ多くの委員の皆様からご意見をいただきたいと存じますので、お一人当たりの発言は2分程度とさせていただきたいと思えます。恐縮ですが簡潔なご発言をお願いします。それではご発言のある方は、挙手をお願いいたします。なお、オンラインで参加されている委員の方は、挙手機能等を用いて、お知らせいただけたらと思えますのでよろしくお願いいたします。それではいかがでしょうか。矢島委員、どうぞ。
- **矢島委員**：前回の部会で出た委員からの意見を踏まえ、丁寧に修正していただきありがとうございます。私が意見したKPIとアウトカムのギャップなどについて、分かりやすく修正案を出していただいたと思えます。さらに、元々の目標値の高低差があるもの、計画の4年後、40年後の中長期的なビジョンとのギャップについての意見も、今後、評価を実施するプロセスで趣旨を生かしていただけるということなので、私もそのような形でよいかと思えます。是非よろしくをお願いします。最後に、今後、評価を丁寧に進めるに当たって、業務の効率化、やはり評価には時間や手間がかかりますので、出来るだけ効率化して進めてもらえるよう、ご検討いただければと思えます。よろしくをお願いします。
- **小野島部会長**：はい、ありがとうございます。これに対して事務局のお考えがあればお聞かせいただけますか。
- **馬淵総合政策課長**：ご意見ありがとうございました。お話にありました2040年に向けたところは、4年間だけではなく、その後どう続いていくのかというトレンドや、目標、社会環境、指標の動向なども踏まえて、評価の分析の視点として、きちんと取り入れていきたいと考えています。
- **矢島委員**：現状を踏まえ、目標が低くならざるを得なくなっているところは、KPIが達成したとしても十分進んでいると言い難いところもありますので、そうした部分は定性的なコメントで補充してもらえばよいと思えます。

- **小野島部会長**：はい、ありがとうございます。ご指摘のとおり、目標値が適切なのか、見直す必要があるのかについては今後の課題になると考えていますので、そのような形で、今後進めていければと思っています。それでは河野委員、お願いします。
- **河野委員**：このたびは、前回の議論を受けて丁寧な整理をいただき、ありがとうございました。今回も勉強させていただきながら拝見しました。私からは、今、矢島委員が最後にご指摘されたところに関係してくる所で1点意見があります。資料2の「1 基本的な考え方」の「(3) 効果的・効率的な政策運営」の最後に、「評価作業そのものの費用対効果にも留意する必要がある」という記載があります。ここではこのような記載に留まっていますが、それをどのように実現していくのかという点が少し気になります。なぜならマンパワーが減少している中で行政負担は拡大する傾向にあり、その中で費用対効果を意識しながら分析評価を実現することは容易ではないと考えるためです。そこでどのようにするのが良いのかを考えますと、有用なデータを収集・蓄積し、より使いやすいデータの蓄積基盤を作っていくということが重要になると思います。そのためには、組織内での連携も必要になろうかと思えますし、それだけでは不十分で、組織外との連携や国からの支援といった外部のノウハウ・スキルの活用も、それらを実現するための1つの考え方ではないかと思えます。今回の資料の中に記載することが適切かどうかは、ご検討いただきたいと思いますのですが、そうした視点を検討していくことが有用なのではないかと思えます。私からは以上でございます。
- **小野島部会長**：はい。ご意見ありがとうございます。一次評価から最終評価までタイトなスケジュールですので、短い期間で評価を行っていくには、作業量も増えていくものだと思っておりますが、事務局の方で何か対応案などについて考えがあるようでしたら、ご披露いただきたいと思いますがいかがですか。
- **馬淵総合政策課長**：貴重なご意見ありがとうございます。いただいた視点については、我々もまさに、検討しているところです。国が示した「骨太の方針」にもEBPMの記載がかなり充実して盛り込まれているとおり、データ分析の必要性を我々も認識しているところです。これまでは、経験値であったり、データではないところで評価をしてきました。例えば、前回の第3期実施計画点検報告書においても、文章量が多くなり、そこにマンパワーをかけてしまったという反省点もありましたので、今回は数値で追えるところは出来る限り数値で示して、充てる労力の方向性などを工夫出来ればと思っております。また、県庁内にはデータ関係を所管している部署もございますので、連携を図ったりデータの専門家などからアドバイスをいただいたりしながら進められればと考えているところです。以上でございます。
- **小野島部会長**：ありがとうございました。その他、ご意見等ございますでしょうか。原嶋委員どうぞ。
- **原嶋委員**：前回の部会において、評価の方法や進め方についていろいろなご意見が出まして、私も何点か意見を申し上げさせていただきましたが、今回の修正案に反映していただいたと理解しております。今後は、県民への伝え方になってくるのだと思います。今のところ、ホームページへの掲載やパンフレット（概要版）などを作成するということですが、知事はキャスター出身ということでテレビなどの方も強いかと思いますので、テレビやSNSを活用するなど知事の特長も生かして、県民への伝え方を工夫していただければと思います。全体として、前回の色々な議論が忠実に反映されていて感謝申し上げます。ありがとうございました。
- **小野島部会長**：ありがとうございます。確かにどのように周知していくかが、今後の課題になろうかと思えますので、是非とも、さらなる検討をお願いしたいと思います。次に、中田委員どうぞ。
- **中田委員**：本日は丁寧なご説明ありがとうございました。先ほどから何人かの方が発言されているよう

に、前回出た意見がかなり反映、修正されて、より良くなっている点は、感謝する次第です。私がいまははっきりと理解せず言っているようでしたらご指摘ください。資料3の「評価報告書 様式イメージ」の1ページ目、プロジェクト3「未病・健康長寿」について、特に私は関心を持って説明を聞いていました。ここに書いてある案は、本当によく考えられたモデルかと思いますが、ロジックモデルの「構成施策」、「取組内容」について、具体的に何に取り組むのかがわかりません。例えば、「取組内容」の「高齢者の未病改善」、「働く世代の未病改善」、「子どもの未病改善」など改善されれば本当に素晴らしいと思いますが、取組が具体的に分かりません。未病の人が減った、減らないというのは、年ごとに統計等で把握できるのかもしれませんが、そこにつながる取組が具体的に分からなかったのも、質問させていただきましました。以上です。

- **小野島部会長**：はい。ありがとうございます。ご質問ということなので、事務局の方からご回答をお願いします。
- **馬淵総合政策課長**：はい、ご質問ありがとうございます。具体的な取組についてどういうことかと申しますと、こちらの「新かながわブランドデザイン実施計画」の16～17ページをお開きください。こちらでは、例えば、「高齢者の未病改善」の具体的な取組が何かというと、17ページの一番上、「具体的な取組A」の1つ目の○に文章で記載しているような内容に取り組んでおります。ここにあるとおり、複数の事業でこうしたことを実現していきます。例えば、普及啓発事業や、地域のコミュニティ活性化のために、団地内の集会所で地域コミュニティの場を作るといった、多くの事業に取り組んでいます。ただ、計画書には、すべて書くわけにはいかないことから、こうした文章で記載させていただいております。今回、評価の際には、具体的にどれだけ取組が進んだのかというところが、大事になってくると思います。資料3「評価報告書 様式イメージ」の4ページ目の中で、主な事業の取組状況ということで、例えば「●●の説明会」であるとか、「●●に関する研修」とか、県が1年間に取り組んだ具体的な事業内容を部会の皆様にお示しして、客観的に二次評価をしていただければと考えています。説明は以上です。
- **小野島部会長**：中田委員、いかがでしょうか。
- **中田委員**：ありがとうございました。お願いしたいのは、県民の皆様がそうした機会が増えてきたことを肌で感じるくらいになると、非常にいいかなと思います。ありがとうございました。
- **小野島部会長**：他にご意見ありますでしょうか。国崎委員どうぞ。
- **国崎委員**：危機管理教育研究所の国崎です。前回の部会で、総合分析にコメントを入れてはどうかという意見に対して、今回資料に反映いただきありがとうございます。これによって、どのような視点で評価されたのかということが、一般の方にも非常に分かりやすくなるのではないかと期待しています。私からは、資料3の2ページ、最終評価の重みについてお伺いします。資料1の9ページを見ても、非常に一次評価に重みがある印象です。二次評価というのは、神奈川県総合計画審議会における二次評価と理解していますが、KPIの達成状況における4段階評価、つまり、一次評価と二次評価は、ほぼ変わりなく、同じような評価になるのでしょうか。例えば、一次評価の総合的な評価で「順調に進んでいます」となった場合、減多なことがない限り、二次評価で覆ることはないような気がします。そうしますと、二次評価の重みというのは単に承認という位置付けとなるのでしょうか。資料3の2ページを見ても分かる通り、KPIの達成状況も含めて県による一次評価に非常にページを割いており、二次評価のボリュームが非常に小さいことから、二次評価の重みについては、どの程度と考えているのでしょうか。つまり、一次評価が、二次評価でも結局、変わらないのであれば、一次評価だけでもいいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

- **小野島部会長**：事務局の方から回答をお願いします。
- **馬淵総合政策課長**：二次評価が最終的な評価となりますので、二次評価は大変重いものと考えております。そのような前提がありますので、前回の第3期実施計画の評価は、コロナ禍であったため二次評価は行いませんでしたが、その前の第2期実施計画の評価の際には、同じような形で、二次評価を行っていただきました。一次評価が高過ぎたため、計画推進評価部会のグループ会議において、委員の皆様の専門的な知見により、二次評価で評価が下がったこともありました。引き続き、今回についても、皆様の専門的な知見で、県が行った一次評価が妥当であるかどうかご議論いただければと考えております。
- **国崎委員**：ありがとうございます。二次評価に非常に重みがあつて重要であるとのことですが、このレイアウトや内容では、二次評価が非常に浅くとらえられてしまうような気がします。二次評価の枠がとても小さくて、県の一次評価が複数ページにわたり行われていることから、二次評価の重みについて質問させていただきました。この資料では、県民の皆様にも、最終評価の重みがあまり伝わらないのではないかと思います。これは案であつて、最終評価の議論の中で評価が落ちることがあれば重点的に記載されるのかもしれませんが、この案の中では、そのような印象を受けました。以上です。
- **小野島部会長**：ありがとうございます。基本的にはサンプルであつて、実際に評価する際には、もう少し変わっていくであろうと、私も期待しております。あと、やはりどの程度書くべきなのか、ある程度統一されないと、1つのプロジェクトには、長々と書いてあつて、別のプロジェクトは少ないのも変な感じがしますので、その辺もいずれ議論していかなくてはいけないのかなと考えております。あと、「概ね順調に進んでいます」とありますが、二次評価の段階で変わっても全然構わないということを確認しましたので、今後の評価の際には、そのような形で進めていけたらと考えております。その他、ご意見等はございますか。金川委員、どうぞ
- **金川委員**：基本的小お尋ねになるのですが、ロジックモデルを使い、体系的に評価していくということで、13のプロジェクトごとに評価し、13のプロジェクトの中から主要施策を7つ掲げています。この資料によりますと、ロジックモデルの評価は、基本的には最終的なアウトカムに対して、どういうインプットで、どういった活動に取り組んだのかを評価します。そこで、教えていただきたいのですが、例えば、こちらの「新かながわランドデザイン実施計画」の156ページに、プロジェクトと主要施策との関係が施策番号ごとにあります。ロジックモデルで考えていきますと、資料2で「取組内容」、「構成施策」、そして、「プロジェクトのねらい」で整理しています。例えば、「高齢者の未病改善」、「働く世代の未病改善」そうしたものが取組内容として、いわゆるロジックモデルにおける活動内容が明示されています。それは、ここの156ページから、数ページにわたって、何百という主要施策がありますが、主要施策が取組内容に全て当てはまっているものなのかと、どの主要施策がどのロジックモデルの活動内容に対応しているのか、拝見していて、よく分かりませんでした。例えば、「子ども未病改善」という取組内容、つまり、主要施策がありますが、「子どもの未病改善」という施策に対しては、資料3の4ページにありますような主な事業の取組状況も評価をなさるわけですか。「子どもの未病改善」のためには、人・金・物を使っていろいろな事業を行うわけですから、いろいろな未病改善のための「●●事業」、「●●啓発事業」にも取り組んだということで評価されていくと思います。主要施策とロジックモデルにおける取組内容の対比は、どのように見たらいいのか、教えていただければと思います。
- **小野島部会長**：ありがとうございます。資料3の4ページと3ページの繋がりについてのご質問でしょうか。事務局から少しご説明をいただけたらと思うのですが、お願いいたします。
- **馬淵総合政策課長**：ありがとうございます。まず、実施計画の作りですが、委員からお話のあった主要施策については、実施計画の86ページから117ページまでにかけて、7つの政策分野に分け、こうし

た取組を進めますと計画に位置付けた事業として記載しています。プロジェクトは、分野横断的に取り組んでいくこととして重要なものを、主要施策から抽出して構築していますので、1つのプロジェクトは複数の政策分野で構成されています。実際に、このプロジェクトで取組内容が具体的にロジックモデルのどこに当てはまるのかというところですが、「未病・健康長寿」のパートで見ますと、実施計画の157ページをご覧くださいまして、ここに「未病・健康長寿」のプロジェクトに載せている主要施策の番号を振っており、その右側にプロジェクトの構成施策A・B・Cと振っています。このAと書いているものは、17ページの具体的な取組A「未病改善による健康長寿の延伸」に紐づいている事業を示しています。つまり、1つ目の子ども・若者・教育の「食育・健康教育の充実」、これをAの施策として取り組んでいるということになります。「子どもの未病改善」について、手元に詳しい資料がございませんが、子ども・若者・教育に係る124番の事業などが、「子どもの未病改善」として紐づいているような作りになっています。124番が具体的に何をしているのかというと、実施計画の90ページをご覧ください、124番に「食育・健康教育の充実」という形で、公立学校での食育に関わる内容等を記載しています。このような立て付けで、計画を構成しています。説明が分かりづらくて恐縮ですが、そのような形で、計画書を作っています。以上です。

- **小野島部会長**：よろしいでしょうか。
- **金川委員**：ありがとうございます。それで今おっしゃっていた90ページのところの124番に掲げてある事業名が最終的な評価の事業項目として上がってくるという理解でよろしいでしょうか。
- **馬淵総合政策課長**：ありがとうございます。124番の中で具体的に取り組んでいる内容を、もう少し県民の方が読んで分かりやすいような記載にしまして、具体的に取り組んでいる事業の取組内容を表せればと思います。以上です。
- **金川委員**：ありがとうございます。
- **小野島部会長**：その他ご意見等ございませんでしょうか。伊達委員どうぞ。
- **伊達委員**：これまで何回か伝え続けていることですが、量的評価の意味がどこまでありますか。量的評価をすることによってどのようなデメリットが生じるのか。アクションを起こすことによる量的変化がどのような因果関係を持つのか。こうしたところをしっかりと整理した上で、質的な評価として定性的なところをどう見るのか、量が増えたから、数が達成できたからいいということではないはずですが。  
あと、ロジックモデルで破綻しているものがいくつかあります。それでは充足しないものや、なぜそこに入っているのかというものがあありますが、今日は、基本的に、進行管理（案）及び様式イメージについてのみの議論なので、その細かいところの話は割愛させていただきますが、そうしたところは質的な評価のところ、「破綻しているように見えるが、実はこういう形で考えている」といったように補完する必要があるかと思えます。一見破綻しているように見えるけれども、実は破綻していないといったところは、説明責任を果たすべきだと思います。  
あとは、評価の費用対効果という以前に、施策の費用対効果、プライマリーバランスがポジティブになっている中で、どれだけの費用がここにかかるのか、かけた結果、どれだけのリターンがあるのか、税金を含めた歳入といったものがどのように変化していくのか、黒岩知事が良いのか、もしくは県に籍を置く企業が頑張っているから良いのかは分かりませんが、税金はポジティブになっています。そういった中で、これから税金がどう変わっていくのか、その中でどういった政策的支出経費がかけられるのか、かけているものの意味といったものが、ここに入っている進行管理の中で、しっかりと裏付けを持って評価をされていくべきですが、そういったものはどこにも記載がありません。そうしたところも、定性的な記載のところでも構わないので、様式イメージのところ等で記載をいただく必要があるのかなと思っています。

す。その中で評価の費用対効果といったところは、どこまで費用をかけることが可能なのかというパイを示さない中で、費用対効果がということで逃げるのは問題かと思えます。まずこれ位の予算をここにかけられる、そのかけられる予算に対して、どこにプライオリティを置いて、それを配分するのかといったところも、しっかりと表現する必要があるかと思えます。また、今回の議事進行ですが、45分間、最初に説明するのはやめていただきたいです。資料を読み込んで、この資料はどういう意味を持っているのかといったところの議論をする場といった意味で、皆さんの貴重な時間だと思っているので、事前に資料配付するまでの期間、配布してから読み込むまでの期間が非常に短いといった問題など、いろいろ進行上の問題があるかと思えます。そうしたところも工夫していただければと思っております、以上です。

- **小野島部会長**：ありがとうございます。多岐にわたるご意見をいただきましたが、量的評価だけでなく質的評価もきちんとしていかなければいけないという話は、前回部会でもよく出てきたところでもありますので、やはりその辺は、しっかりと記載いただいて、結局は二次評価、最終評価のところでも何を書くかがポイントになります。その中で、この数値はあまり合わないのではないかなというようなことも出てくるのではないかと思いますので、その辺のところをしっかりと我々評価する側の方で、十分に考えていかなければいけないというふうに考えております。議事進行につきまして、特に資料について、送られてきたのは昨日でした。たしかに少し時間が少ないというところがございますので、その辺のところを含めて、改めて事務局の方でお考えいただけたらというふうに思います。事務局から何か補足するべきところがありますか。
- **馬淵総合政策課長**：まず運営の関係につきましては、真摯に受けとめたいと思います。委員の皆様、大変申し訳ございませんでした。この場をお借りして、お詫び申し上げます。そして、伊達委員、貴重なご意見、大変ありがとうございました。以前から委員よりご指摘をいただいています点については、我々も真摯に受けとめて、引き続き改善し、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。その気持ちは持っておりますので、引き続きご指導いただければと思えます。  
それから、どれだけ予算をかけるかということも、今回、実施計画では、127ページで、プロジェクト事業費というページを作りまして、事業規模、これだけの予算を各計画費としてかけていきますという形で、示させていただいております。これが実際に、実績としてどうだったのかということも含めて、評価報告書では、予算化した金額、それから、決算が出た段階にはなりますけれども、決算額についても示していけるように検討しているところでございます。
- **小野島部会長**：たしかにコストデータのところは非常に重要だと思いますので、できれば二次評価の際にはもう少し細かめの資料もいただけると、評価しやすくなるのかなというふうに考えています。他にご意見等ございますか。では、山岸委員どうぞ。
- **山岸委員**：まず、この実施計画を運用していくに当たっての骨格が整えられたのかなという印象を受けたところであります。「実施計画をきちんと評価していくんだ。」という県の姿勢が県内市町村の刺激になればいいなというところを1つ目の感想として思ったところでもあります。伊達委員が大変詳細にお話してくださったところでもありますけれども、これだけ評価をきちんとやっていくという姿勢が示されたところだからこそ、やはり県による一次評価の内容が問われることになるのかと思いました。単純に出来た、出来なかったというような内容にとどまらず、なぜ出来なかったのかななどをしっかり分析した評価を期待せざるを得ないところでもあります。やはり単に出来た、出来なかったのみを連ねるような内容では、本来の評価の意味を達成しないわけでもありますので、是非そうした、各部署の方々の意識の向上というところも見せていただければなと思いました。また自治体によっては、総合計画の存在が日々の業務の中でほとんど意識されていないという課題も聞きますので、そうした課題もあることを少し共有させていただければと思ったところです。そして最後に1点少し文言で気になったところがありまして、資料2の『「新かながわランドデザイン実施計画」の進行管理について(案)』の2ページ、「(4)状況に応

じた政策評価等」の冒頭に、「コロナ禍」という言葉が使われていますが、「新型コロナウイルス感染症拡大」とか「COVID-19」といった言葉の方がふさわしいのではないかと思ったところですのでご検討いただければと思います。私からは以上です。

- **小野島部会長**：はい。ありがとうございます。文言につきましては事務局の方で、ご検討いただけたらと思います。あと一次評価について、この評価部会の方では二次評価を担当することになりますので、しっかりと一次評価をしていただかないとそれを評価するのもなかなか難しいということになりますので、その辺のところは是非ともよろしく願いたいなと考えております。他に何かご意見、ご質問等ございますか。

それでは、そろそろ意見は出尽くしたのかなというところで、まとめに入りたいと思っております。こちらの新かながわランドデザイン実施計画の進行管理（案）につきましては、11月中旬頃に開催が予定されております総合計画審議会の方に、部会長である私の方から報告させていただきたいと思っております。本日、皆様からいただいたご意見等は部会長である私の方で一旦預らせていただきまして、事務局と調整をしながら修正することで、ご一任いただく形でよろしいでしょうか。

- **委員一同**：（異議なし）

- **小野島部会長**：ありがとうございます。それでは、そのような形で扱わせていただきたいと思います。本日の議事につきましては、以上をもって終了させていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。